

# 2022年度 ドコモ市民活動団体助成事業 活動成果報告書

2023/9/25

団体名	一般社団法人フリースペース道	活動タイトル	フリースクール運営による不登校児童生徒の居場所支援と多様な学びの保障	
<p align="center"><b>望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）</b></p>			<p align="center"><b>■ 活動風景</b></p>	
<p><b>●地域の望ましい社会状況(ビジョン)</b></p>	<p>学校に通っている子だけでなく、学校に通えない子も等しく普通教育を受ける権利を有すること。学校以外での多様な学びの場が保障されること。また、いかなる子どもたちも社会的自立に向けて個々に持っている能力を育む環境や場所があり、社会から『不登校』『ひきこもり』という概念や状況がなくなることが望ましい。</p>	<p>松山御本丸公園さくら音楽祭</p>		
<p><b>●団体の社会的役割(ミッション)</b></p>	<p>宮城県内で不登校状態にある児童生徒が、学校以外で安心して過ごせる居場所、学びや活動ができるフリースクールとして運営を行う。子どもたちとの活動を通して、自己肯定感を高め、将来へ歩むためのエネルギーを蓄えと共に、様々な体験活動を通して社会的に自立するサポートを行う。</p>	<p>2023年4月に大崎市内で開催した音楽祭。フリースペース道の子どもたちが主体となってイベントを準備・運営を行った。体験活動の中でも子どもたちが大きく成長したイベントになった。</p>		
<p><b>●団体の活動基盤</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●人材育成：不登校の子どもたちに対する理解があり、心身面でのサポートやケアができる人材、学校以外の新しい教育の在り方に強い関心があり、積極的に活動できる人材の育成を行う。</li> <li>●物的資源：フリースペース道の活動理念に共感してくれる地元企業の協賛ネットワークを構築する。</li> <li>●活動資金：団体が安定的に運営できる自己財源（会費・利用料・イベント収入料）を確立する。</li> <li>●ナレッジ：フリースクール運営で培ったノウハウ及び各種調査結果を法人内で共有し、フリースクールの安定的な運営やスタッフのスキルアップに活用する。</li> </ul>			
<p align="center"><b>■ 活動報告</b></p>		<p align="center"><b>■ 1年間の目標に対する達成状況(まとめ)</b></p>		
<p>■「フリースクール運営による不登校児童生徒の居場所支援と多様な学びの保障」として1年間の活動を行い、大きな成果を挙げることができた。各種体験活動を通してフリースペース道に通う子どもたちは社会的自立に向けて成長し、自らの力で進学を決めた子もいる。</p> <p>また、親の会や不登校に関する勉強会・シンポジウムについても、1年間の開催を通して様々な分野の方々との交流や不登校・学校以外の多様な学びに関する理解や共通認識を広めることができた。その結果、大崎市教育委員会を中心とする行政との連携も深まり、福祉課との連携など包括的な支援を行うための下地作りを進めることができた。</p> <p>■フリースペース道のスタッフも研修等を通して各々成長を続けている。本助成金を採択いただいた1年目の活動の中で、次年の活動につながる大きな礎を築くことができた。しかしながら、最終目標である「多様な学びの保障」に向けてはまだ道半ばであるので、活動に関わる方々と手を取り合いながら活動を継続していく。</p>	<p>■ <b>社会的自立に向けた体験活動</b></p> <p>①開催：10回実施 ②目標アウトカム：参加者の82%が「自信がついた・成長した」と答えた。</p> <p>■ <b>親の会の定期開催</b></p> <p>①開催：10回実施 ②目標アウトカム：参加者の82%が「気持ち楽になった」と答えた。リピート参加率は43%であった。</p> <p>■ <b>不登校に関する勉強会・シンポジウム</b></p> <p>①開催：2回 ②目標アウトカム：参加者の81%が2段階以上評価が上がった。</p> <p>■ <b>事業運営目標に基づくスタッフ研修</b></p> <p>①専門家の講師をお呼びした研修会、他のフリースクールへの視察研修 ②目標アウトカム：運営スタッフ6名の総合評価が2段階以上アップした。</p>	<p>不登校・多様な学びを考える親の会</p> <p>月に1回、不登校当事者の保護者や若者、教育関係者等を交えた勉強会・座談会を開催し、不登校への理解普及に努めた。</p>		
<p align="center"><b>■ 事業を通じて得られたノウハウ</b></p>		<p align="center"><b>■ 望ましい社会状況を達成するための課題</b></p>		
<p>■ <b>不登校の子どもたちの社会的自立に向けたサポート方法</b></p> <p>フリースクールの日々の運営や各種体験活動を通して、不登校の子どもたちの心の変化や社会的自立に向けた成長プロセス、それに対する大人側のアプローチ方法の一例を確立することができた。これにより、子どもが不登校になったときの家庭や学校での誤った初期対応を軽減できる他、子どもたちの成長プロセスに合わせた適切な対応を対外的に広めることが可能になる。</p> <p>■ <b>行政との連携の進め方</b></p> <p>不登校支援に関する官民連携については全国的にもまだ黎明期であるといえるが、今回の事業を通して地元自治体の教育委員会を中心とした情報交換会や勉強会の開催のためのプロセスや、福祉課など他の機関とのつなげるためのノウハウを構築できた。</p>	<p>■ <b>不登校理解の促進と支援団体及び施設の情報普及</b></p> <p>1年間の事業を通して関わりのあった個人や団体等には、不登校の子どもたちや家庭に対する一定の理解が広まったが、現在の社会全体では、未だ「学校に通うことがあたりまえ」の価値観が中心になっていることが課題であると捉えている。また、子どもが不登校になったときに相談できる場所やフリースクールなどの支援施設の情報が各家庭に十分行き届いていないことも課題である。</p> <p>■ <b>フリースクールから社会的自立をしていく事例が少ない（または広がらない）</b></p> <p>フリースクールが不登校の子どもたちの居場所としての役割となっていることは社会に認知されてきたが、その子どもたちがどのように社会的自立を達成できたかという事例がまだ知られていないことが課題である。数値的なアプローチも含めた根拠のある事例を集約し、対外的に発表することが必要であると考え。</p>	<p>この1年間の活動を通じて</p>	<p>フリースクールに通う子どもたちの社会的自立へ向けたプロセスの確立と、宮城県大崎市における官民連携による包括的な支援の土台づくり</p>	<p>を達成しました。</p>
		<p align="center"><b>■ 活動成果のアピールポイント（自由記入）</b></p>		
		<p align="center"><b>■ 受益者の具体的な変化（自由記入）</b></p>		
		<p>・大崎市教育委員会から、不登校支援についての官民連携の活動提案が出されるようになった。 ・スタッフの一人が新たに子どもの支援団体を設立し、活動を始めた。 ・フリースペース道に通いながら、自らの意思で進学を決める子も現れた。</p>		